

日本人とタイ人の解剖学的破格の比較調査：3大学国際共同研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 理学療法学科 講師

宮本 浩樹 Miyamoto Hiroki

URL：帝京平成大学 教員業績紹介ページ

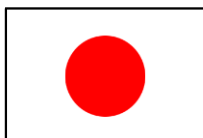


キーワード：腕神経叢・長母趾屈筋腱・分枝・破格・解剖学・国際共同研究

研究の概要

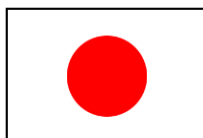
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

【3大学 国際共同研究】



●国内公立大学(北海道)

医学部 解剖学講座



●帝京平成大学

健康メディカル学部 理学療法学科



●ランシット大学(タイ王国)

理学療法学部

【背景】

●スマートフォン等の普及に伴う姿勢不良

- ⇒ 頸部での神経絞扼や上肢支配神経の過度な伸張
- ⇒ 幅広い世代で肩や上肢の筋力低下や疼痛等の機能障害

●姿勢不良による上肢支配神経の伸張部位・程度の定量化は

- ⇒ 臨床症状に対する理学療法の治療選択をするためには必要不可欠
- ⇒ 定量的に科学的根拠が解明

【方法】

- 世界でも希少である全身状態の未固定凍結遺体（新鮮遺体）を対象
- 腕神経叢を剖出し、直接ストレインゲージを設置
- 上肢神経伸張テストや不良姿勢による神経伸び率を計測
- 臨床における上肢神経障害の発症メカニズムの解明と治療介入へ繋げる

【国際共同研究】

●腕神経叢には解剖学的形態に破格が多い

- ⇒ 上肢の神経障害の評価において破格の存在は重要な一考察
- ⇒ 人種が多様化する日本において、海外との比較が必要

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

- ハイテクが進んだ近年では、頸部神経根や胸郭出口などの上肢神経障害を呈する運動器症例が増加
- 理学療法において神経障害を評価することは重要であり、その破格割合や形態を理解することは必須
- 日本では多様化する人種やハイテク環境への対応としての基礎医学的研究を国際共同研究
- これらの知見を臨床現場の他、スポーツアスリートの現場へ応用

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】若手研究採択（24K20449）

【学会発表】「Which dorsal scapular muscle affects shoulder range of motion?」